



京都の公立高校入試を学ぶ① 前期選抜について

この号から、京都府の公立高校の選抜制度について、説明をさせていただきます。

- 前期選抜は、2月3日に出願（**三中から学校毎に**）、2月17日と18日に検査、2月25日に合格発表。（但し、京都堀川音楽高等学校は別日程です。）
- 「前期選抜」は、全ての学科で実施。
特に注意が必要なのは、ほとんどの「職業以外の専門学科」と「普通科の専門的なコース」です。これらは定員の100%を「前期選抜」で決定します。これらの学科・コース（亀岡高校普通科美術・工芸専攻コース、紫野アカデミア科、乙訓スポーツ健康科学科など）（詳しくは「前期選抜要項」を参照）を希望する人は、必ず前期選抜を受検する必要があります。
- 「職業に関する専門学科」では、「中期選抜」も実施されます。
「前期選抜」で定員の70%が決まるので、これらの学科を第1希望とする人も、「前期選抜」から受検した方が良いと思います。
- 令和5年4月開校の京都市立開建高校のルミノーション科は「前期選抜」で50%、「中期選抜」で50%を決定します。
- 普通科は、「前期選抜」で30%、「中期選抜」で70%を決定します。

職業以外の専門学科 音楽 芸術 その他
普通科専門的なコース 体育総合専攻 美術・工芸専攻

定員の全てを前期選抜で決定

職業に関する専門学科
工業 農業 水産 林業 商業 情報 など

定員の70%を前期 **定員の30%を中期**

ルミノーション科（その他普通教育を施す学科-京都市立開建高校）	
定員の50%を前期	定員の50%を中期
普通科（各コースの決定は、入学者が決まった後に行われます。）	
定員の30%を前期	定員の70%を中期

（6）前期選抜の方式について

学力（学科試験・報告書）を中心に選抜するA1方式、A1方式に部活動などの「実績」を加味するA2方式、A2方式から学科試験を除いたB方式、A2方式に実技検査を加えるC方式があり、実施する学科や検査内容の詳細、各検査の比率などは各高校が決めています。（詳細は「前期選抜要項」冊子参照）

	学力検査	報告書	面接・作文	活動実績報告書	実技検査
A1方式	有	有	有		
A2方式	有	有	有	有	
B方式		有	有	有	
C方式	有	有	有	有	有

自分が第1希望で受検したい高校が、どの方式で募集しているのかをよく確かめ、複数の方式を採用しているのであれば、自分に適した方式はどちらなのかをしっかりと考えましょう。

＜各方式の特徴＞

A1方式・・・「意欲と学力に優れた生徒を集めたい」ということです。

A2方式・・・入学後は部活動や生徒会の中心となって活躍する生徒を集めようとしているわけで、その高校が重点を置いている部活動などで高い実績を持っている生徒が選ばれることが予想されます。但し、学力検査もありますので、実績のみでは苦しいと思います。

B方式・・・学科試験が無く、「活動実績報告書」「報告書」「面接作文」で合否が決定されます。A2方式よりもさらに「活動実績」が重視されると思われます。

（7）前期選抜を受検するにあたっての注意事項

①前期選抜で定員の100%を決めない学科では、中期選抜が行われ、残りの定員を決定します。前期選抜で不合格になった場合は、再度同じ学校（学科）に出願することが出来ます。
また、前期選抜よりも中期選抜の合否判定ラインは低くなるのが一般的です。

②中期選抜を実施する「普通科（専門的なコースを除く）」や「職業に関する専門学科」を第1希望にした場合、「前期選抜」に出願する・しないを判断することになります。
「え！、2回チャンスがあるなら、出願すればいいやん。」と思う人もいるでしょうが、物事にはメリットとデメリットがあります。それを理解した上で判断しましょう。

③前期選抜を受検するメリット

「前期選抜」で合格すれば入学校が決定です。2月25日で「受検」は終了となります。

入学する高校で3月に実施される「学力診断テスト」に向けての準備を早く始められます。
また、合格すれば自分の学力に自信が持てるでしょう。

④前期選抜を受検する際のデメリッ

前期選抜の状況を知りましょう。

下の表は、昨年度の前期選抜での近隣高等学校普通科の出願状況を示しています。

		定員	志願者数	志願者数／定員
向陽	A	30	135	4.50
	B	30	35	1.17
乙訓	A 1	36	167	4.64
	A 2	24	30	1.25
西乙訓	A	48	99	2.06
洛水	A	16	86	5.38
	B	32	34	1.06
桂	A	42	219	5.21
	B	42	48	1.14
洛西	A	84	201	2.39

左の表からわかるように、前期選抜は高倍率になっています。倍率ももっとも高かった洛水高校A方式では、86名の出願者の内、70名が前期選抜での合格を得られませんでした。このように、前期選抜では厳しい競争が予想されます。

また、御覧のように方式は、高校によって異なりますので、注意して下さい。

⑤前期選抜を受検せず、中期選抜のみで勝負した場合のメリット

まず受検料2200円が不要になります。願書の準備も不要です。

前期選抜は中期選抜に比べ「記述式（文章で答える形）の問題」が多く出題されています。当然、その対策をする必要があります。でも前期選抜を受けないのであれば、その受検準備は不要になり、中期選抜の対策に集中できます。期選抜を受検しないので、その日も学習できます。また、前期選抜の合格発表に向けてドキドキする必要もありません。

⑥前期選抜不合格の場合

では、前期選抜で合格できなかった場合、どうなるのでしょうか？

前期選抜で「普通科」や「職業に関する専門学科」に出願して不合格になった場合、**同じ高校、同じ学科の中期選抜に出願することができます。**

例えば普通科の場合、中期選抜で合格するのは募集定員の70％です。しかも、もちろん前期選抜で合格した人は中期選抜に出願できません。だから、単純に考えれば、「桂高校の前期選抜（A方式）で上位43番目の検査結果だった人」は、前期選抜では不合格ですが、中期選抜ではトップクラスの学力で受検できることになります。

つまり、希望する高校の中期選抜に合格できる能力を持っている人は、前期選抜を受検しなくても、中期選抜で希望する高校に合格出来るわけです。

このように、前期選抜を受検するメリットも、前期選抜を受検せずに中期選抜だけを受検するメリットもあります。どちらにするのかは、保護者の方とも相談して、しっかり判断してください。

⑦前期選抜を受検するときの心構え

1つ目。**普通科や職業に関する専門学科の場合、前期選抜で不合格になっても、第1希望校をあきらめる必要はありません。**中期選抜でもう一度勝負すれば、合格する可能性があります。ほとんどの高校は中期選抜の方が合格の可能性が大きいと考えてください。（普通科の定員がとて少なく、その学校に職業以外の専門学科がある場合は、前期中期の難易度が逆転する可能性が0ではありません。）

2つ目。「ダメでもともと」と思って受検しても、受検したら「もしかしたら・・・」と期待を持つものです。しかし前期選抜は高倍率。合格証を手にする人よりも涙を流す人の方が多いのが現実です。**もしも残念な結果となっても、すぐに気持ちを切り替えることが大切です。**人数は多くありませんが、前期選抜の結果で自信を無くし、中期選抜にチャレンジせず、併願校（私立高校）への入学を決意する人がいます。自分のメンタル面も考えて判断してください。

以上で、前期選抜についての説明を終わります。疑問点がある方は、是非お尋ねください。

京都府教育委員会による公立高校選抜制度の説明動画も合わせてご覧ください。

本校ホームページから

「お知らせ」というバーの中の「進路情報」をクリック

その中の「京都府立高校スクールナビ」を開いていただき、

「＋入学者選抜制度について」をクリックすると、以下の3つの動画があります。

前期選抜について・・・10分弱

中期・後期選抜【前編】・・・5分程度

中期・後期選抜【後編】・・・10分弱

他府県ご出身であつたり、京都府ご出身であっても初めて高校入試を迎えられるみなさんは、特に視聴していただきますよう、よろしくお願い致します。